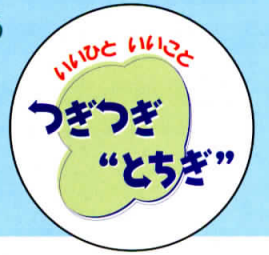


栃木県埋蔵文化財センターだより

発行 平成25年6月14日
栃木県教育委員会
宇都宮市埴田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (公財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2013
6月
やま
か
い
ど



CONTENTS

- 平成24年度栃木県内の発掘調査情報
- ・埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から
- くるま橋遺跡(真岡市) 神田城南遺跡(那珂川町)
- ・市町教育委員会が実施した発掘調査から
- 芋内遺跡(宇都宮市) 宇津木遺跡(足利市)
- 西高橋遺跡(小山市) 三王山古墳群(下野市)
- 明神前遺跡(鹿沼市) 真岡城跡(真岡市)
- 埋蔵文化財担当者研修会
- 平成24年度栃木県内発掘調査一覧
- 平成24年度栃木県発掘調査動向
- 平成25年度巡回展「栃木の遺跡-最近の発掘調査成果から」

■平成24年度栃木県内の発掘調査情報

- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から -

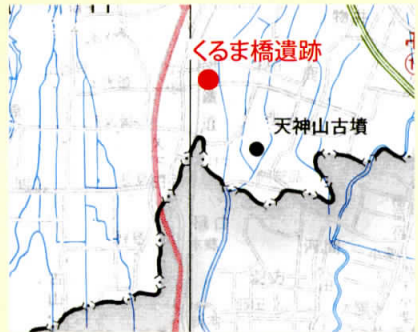
1. くるま橋遺跡(真岡市) - 珍しい文様の土器を発見 -

くるま橋遺跡は、真岡市石島地内にある古墳時代から平安時代(約1,000年前)の集落跡です。五行川の西側の高台にあります。平成25年1月から2月にかけて用水路を作る部分について約1m幅で、長さ600m以上の細長い範囲を調査しました。その結果、約30軒の竪穴住居跡や掘立柱建物跡・溝跡などが発見されました。硯や栃木県内では稀な緑色の釉薬を掛けた陶器片も出ました。

珍しいものでは、奈良時代初めの須恵器の坏(食器)に波形の模様がみられました。土器を焼く前に、棒を使って描いたようです。この器は、土などの特徴から益子の登り窯で焼かれたと考えられます。同じような模様は、水溜め用の甕に、装飾として櫛で描かれています。このような坏に描かれた模様は、宇都宮市の猿山遺跡でも出ています。

なぜ、装飾模様に似た波模様が描かれたのか。益子の窯で土器作りの人びとが、波模様の練習のために、描いたのかもしれませんが。

現代の食器には模様が描かれています。古代の器では稀でした。それを使ったのはどのような人だったのか、遺跡の性格を解く鍵になりそうです。



真岡市くるま橋遺跡



真岡市鶴田A遺跡



宇都宮市猿山遺跡



那須烏山市滝田本郷遺跡

2. 神田城南遺跡（那珂川町）－古代の道路跡が出土－

神田城南遺跡は、国の指定史跡として保護している那須神田城跡の周辺に広がる遺跡です。今回、県道小川大金停車場線の拡幅工事に伴い、発掘調査を実施しました。拡幅部分に限定されるため、非常に細長い調査区ではありましたが、多くの成果を得ることができました。

一つは古墳時代後半、今から約1,400～1,500年前の竪穴住居跡が10軒も発見されたことです。中には一辺が8mを超える大型なものもあり、大きな村が存在したことが窺えます。住居内に作られたカマドの形態や出土した土器の特徴が、東北地方のものと類似しており、関連性が注目されます。

二つ目は、約6mの間隔をもって平行する2本の溝跡が、現在使用されている県道の両側から発見されたことです。2本の溝は道路の側溝と考えられ、出土した平安時代前半の土器や「かわらけ」とよばれる中世の土器から、道路の構築時期や存続期間が推定できます。

平安時代末期、那須神田城が当地に築城されますが、その理由としてこの道路との関係が考えられます。この道路は1,200年を経た現在も、県道として利用されています。



南上空から見た那須神田城跡と調査区



側溝跡調査状況

－市町教育委員会が実施した発掘調査から－

3. 芋内遺跡（宇都宮市）－古代の集落跡を発見－

芋内遺跡は市の南部、田川の東方約700mに位置し、田川支流の小河川に挟まれた微高地上に立地しています。

市道5580号線の建設に伴う確認調査を平成23年度に実施したところ、川跡と溝跡が確認されました。24年度はその東側の区域について発掘調査を実施し、古代の竪穴住居跡が6軒確認されました。

住居跡は長さ4～5mのほぼ正方形を呈し、北側あるいは東側にカマドをもちます。SI-02とSI-03は重複していることから、集落は少なくとも二時期にわたることがわかりました。

遺物は住居内から、土師器の椀、坏、甕や須恵器の坏が出土しました。

竪穴住居跡は遺跡の東側に密集しており、西側からは確認されませんでした。このことから東側の微高地が居住域、西側の低湿地が、稲作等が行われていた生業域と考えられます。

宇都宮市教育委員会 (028-632-2764)



遺跡全景



竪穴住居跡から出土した土器

4. 宇津木遺跡（足利市）－古墳時代の集落を確認－

宇津木遺跡は、足利市西部の葉鹿町に位置します。この葉鹿の語源は、古代の「波自可里」^{はじかのさと}「土師郷」^{はじけ}によるものと考えられ、宇津木遺跡がその一部にあたると考えられています。

今回、消防西分署建設に伴い、事前の発掘調査を実施しました。その結果、古墳時代中後期から終末期にかけての竪穴住居跡4軒、土坑4基、中近世の土坑6基、ピット7基、溝跡1条が確認されました。これまで、古代の集落が中心と考えられていた本遺跡ですが、5世紀末から7世紀前半にかけての集落が確認されたことで、周辺遺跡の状況からも、当該期にこの地域の開発が本格化していったものと考えられます。また、今回確認された溝跡及びその周辺からは、中世の遺物が比較的多く出土しており、過去に東側地点で実施された第1次発掘調査で確認された中世城館ないし寺院跡との関連性がうかがえます。

以上のように、今回の調査により、宇津木遺跡ならびに葉鹿地区の歴史を知る上で貴重な成果を得ることができました。
(足利市教育委員会 0284-20-2230)



遺跡全景



出土した遺物

5. 西高橋遺跡（小山市）－谷底に営まれた古墳を調査－

西高橋遺跡は、小山市の東、田川右岸の段丘上に位置しています。田川沿いには、寺野東遺跡をはじめ、南北に多くの遺跡が濃密に分布しています。工業団地開発予定地は、寺野東遺跡の北1kmに位置し、事前に確認調査したところ、40基を超える古墳が予定地内に分布していることがわかりました。

昨年度は、調査区の北側で、古墳2基、小石室1基を調査しました。古墳はいずれも円墳です。16号墳は、径22m、17号墳は径20mの規模で、石室はすでに失われていました。周堀は幅2～4mで、中から甕や椀が出土しています。遺物などから見ると、両古墳とも5世紀頃造られたと考えられます。小石室は、河原石で組まれたもので、長さ1.8m、古墳の造営後、16号墳の西側に営まれたものです。

調査区は、北東側から続く開折谷が入り込む地形で、16号墳は谷底に造営されたものです。調査は、古墳群の成り立ちや構成を知る上で貴重なものとなりました。なお、平成25年度から、(公財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが継続して調査を行います。

(小山市教育委員会 0285-22-9668)



古墳の調査風景



出土した土器

6. 三王山古墳群（下野市）－市内最大級の前方後円墳を確認－

三王山古墳群は、鬼怒川と田川に挟まれた台地上に所在する古墳群で、同じ台地上には古墳時代を通して古墳が造られ、100基以上の古墳が存在しています。古墳群南端には前方後方墳（1号墳・2号墳）が存在し、2号墳は出土した遺物から、栃木県内でも最古級の前方後方墳であることがわかっています。

今回の調査は、公園整備に伴い古墳の範囲を確認するために実施したもので、39号墳及び40号墳の調査を行いました。39号墳は、前方部を南西に向け2段に造られた前方後円墳で、調査の結果、周溝上面での墳長が約75mで墳丘1段目の平坦面の幅が約10m、周溝の幅が8～16mであることがわかりました。また、古墳の北側から東側には、削り出しによる周堤があることが確認され、周堤まで含めた全長は100mをこえることがわかりました。40号墳は、これまで墳形が不明でしたが、周溝上面での直径が約30m、周溝幅が約6mの円墳であることが確認されました。

下野市教育委員会（0285-22-9668）



39号墳調査状況



40号墳調査状況

7. 明神前遺跡（鹿沼市）－縄文時代中期・後期の包含層を調査－

明神前遺跡は鹿沼市街地の南約2km、鹿沼市上殿町に所在する縄文時代から近世にかけての複合遺跡で、縄文時代の水場遺構の発見された遺跡として知られています。

今回の調査は、水場遺構の発見された調査区の南に隣接し、宅地造成に先立って発掘調査を行いました。調査の結果、縄文時代中期から後期にかけての包含層を調査し、縄文時代の石囲炉1基、埋甕1基、配石遺構、古墳時代以降の竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡1条などを確認しました。石囲炉は大形の川原石を方形に囲い、中央に中期の深鉢形土器が埋設され、埋甕は後期の深鉢形土器が単独で埋設されていました。配石遺構は風倒木痕によって攪乱を受けていましたが、周囲から土偶や独鈷石などの貴重な遺物が出土しました。縄文時代の包含層からは、中期後葉から後期前葉を主体とする縄文土器、石鏃・打製石斧・磨製石斧・石皿・凹石等の石器類が多数出土しました。竪穴住居跡はわずかに出土した遺物から古墳時代のもものと判断されます。また、今回確認された溝は過去の調査で確認された溝の延長と考えられます。

鹿沼市教育委員会（0289-62-1172）



石囲炉（南西から）



埋甕（北西から）

8. 真岡城跡（真岡市）－曲輪の中央でひそかにきらめく白雲母の謎－

真岡城は、宇都宮氏と縁戚関係にある芳賀氏の居城であり、築城は14世紀半ばと考えられています。主郭は現在の真岡小学校にあたり、小学校正門が大手口と想定されています。今回調査した箇所は、この大手口を挟んで主郭の反対側に位置する曲輪部分であり、東日本大震災で被害を受けた城山公園の再整備に伴う事前の発掘調査です。

調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡6基と井戸跡1基、真岡城に関する竪穴建物跡19基と井戸跡1基、土堀跡1基、近世の真岡陣屋に関連する遺構4基が見つかっています。

真岡城に関する竪穴建物跡は、物見櫓と想定される6本柱の建物1基、やや大型の建物5基、それ以外の棟持ちの小屋状建物13基があります。やや大型の建物のうち2基は、壁立ちの建物とやや深い倉庫状の建物が軒を揃えて近接して立ち、曲輪の中心的な建物であったと想定されます。

白雲母の原石破片が、この倉庫状の建物の一番奥、北側壁際の床面から見つかっています。大きさは親指大ほどで、細かな破片は入口部付近にも見られました。白雲母は白色または透明で、ガラス状に薄く剥れる鉱物です。この付近では福島県の石川町で産出しますが、阿武隈山系に鉱脈があり、茨城県石岡付近でも採取できる可能性があります。現代では、その耐熱性から電熱線などに使用されているとのこと。また、江戸時代頃からは、日本画の顔料に含ませ、光沢の効果を出す「きらら」として用いられたそうです。

真岡城の白雲母。果して何のために、曲輪の中心建物の一番奥まったところに置かれたのでしょうか。その輝き、珍しさから保管されたのでしょうか？それとも、絵が趣味の家臣がいた？あるいは合戦のための地図を描くときに使われたのでしょうか。謎の出土物です。

真岡市教育委員会（0285-83-7731）



軒を揃えて立つ曲輪の中心建物跡（南から）



白雲母の出土状況（南から）

－埋蔵文化財担当者研修会－

埋蔵文化財センターでは、市町の埋蔵文化財担当職員等の資質の向上を目的として、毎年講師を招いて研修会を行っています。これまでに、各種の考古学研究や史跡整備、文化財の保存活用などをテーマとしてきました。近年では東日本大震災後に取り組みられている文化財レスキューも取り上げました。

文化庁記念物課禰宜田主任調査官による講話

昨年度は、平成25年3月1日に栃木県庁内の会議室で、文化庁記念物課の禰宜田佳男主任調査官による「埋蔵文化財保護行政の課題と展望」と題する講話を実施しました。震災復興事業に伴う埋蔵文化財の保護、埋蔵文化財保護体制等の整備充実、埋蔵文化財の保存と活用の3つのテーマに沿って、話が進められました。



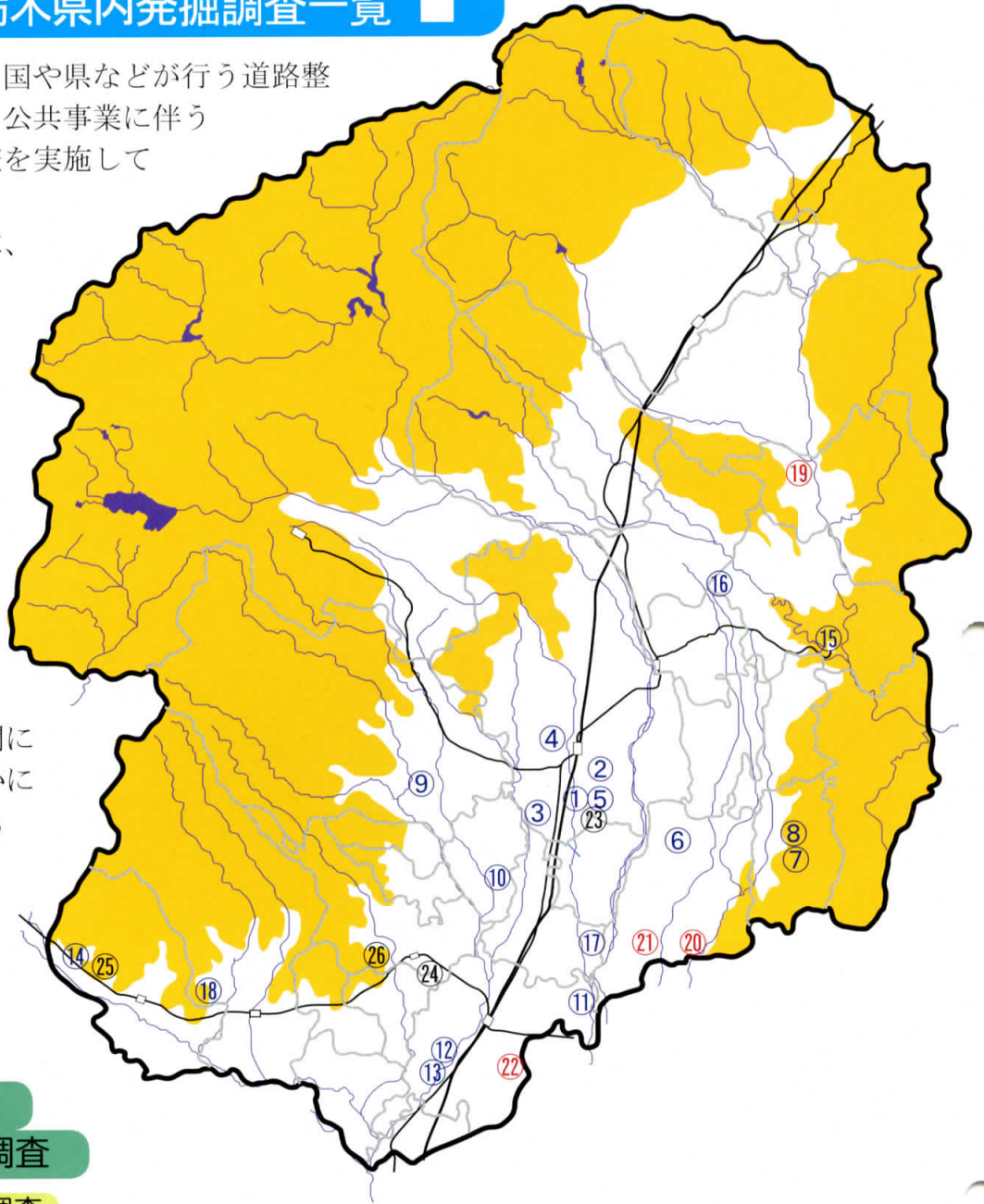
■ 平成24年度栃木県内発掘調査一覧 ■

埋蔵文化財センターは、国や県などが行う道路整備や圃場整備事業などの、公共事業に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、市町教育委員会は、市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

さらに、県・市町教育委員会は遺跡の内容を明らかにするための発掘調査や、史跡整備のための発掘調査も行っています。

このほか、大学など県・市町教育委員会以外の機関による、遺跡の内容を明らかにするための学術調査なども行われています。



◎市町教育委員会が実施した発掘調査

●記録保存のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
①	芋内遺跡	宇都宮市	古代
②	さるやま城古墳群・さるやま城遺跡	宇都宮市	古墳・古代
③	針ヶ谷新田遺跡	宇都宮市	弥生・古墳
④	北の前遺跡	宇都宮市	古代
⑤	砂田姥沼遺跡	宇都宮市	古墳
⑥	真岡城跡	真岡市	古墳・中世・近世
⑦	西明寺城跡	益子町	中世
⑧	御霊前遺跡	益子町	縄文
⑨	明神前遺跡	鹿沼市	縄文
⑩	堂金林遺跡	下野市	古代・中世・近世
⑪	西高椅遺跡	小山市	古墳
⑫	千駄塚浅間遺跡	小山市	古代・中世
⑬	間々田八幡前遺跡	小山市	古代
⑭	宇津木遺跡	足利市	古墳・古代

●史跡整備等のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑮	烏山城跡	那須烏山市	中世・近世
⑯	長者ヶ平官衙遺跡	那須烏山市	古代
⑰	三王山古墳群	下野市	古墳
⑱	赤見市場古墳	佐野市	古墳

■ 平成24年度栃木県発掘調査動向 ■

昨年度、栃木県内では一覧表に示した25件の発掘調査が実施されました。

発掘調査は様々な目的で行われています。考古学上の課題の解決を目的とする学術調査、史跡整備を目指して遺跡の性格を明らかにする調査、そして、開発行為の際、事前に発掘調査をして遺跡の内容を後世に伝える「記録保存のための発掘調査」などがあります。1970年代以降、日本列島では各地で盛んに開発工事が行われ、記録保存の発掘調査が数の上で大きな割合を占めてきました。しかし近年では、遺跡をなるべく残すことにも力を入れ、遺跡の保存、活用に様々な取り組みがなされるようになりました。栃木県内においても下野市による下野国分寺跡の整備が進められています。史跡整備のための発掘調査も、那須烏山市により烏山城跡と長者ヶ平官衙遺跡において継続して行われています。烏山城跡は4回目の調査となり、正門から丸内内部へ続く防御施設が明らかにされました。

学術調査は4件実施されました。古墳時代の豪族居館の実態を明らかにする目的で、宇都宮市権現山遺跡の発掘調査が続けられています。古墳時代の豪族居館は、住居跡を溝が方形に囲む例が多いのですが、調査の結果不整多角形であったことがわかりました。足利市機神山24号墳ではチャート割石積みの胴張り型石室を調査し、ガラス小玉等の副葬品が出土しました。栃木市の城内町古墳群1号墳では、後円部の埴輪集中箇所と前方部の石敷きテラスが確認されました。

市町村が行った記録保存のための発掘調査でも成果があがりました。縄文時代の水場遺構で有名な鹿沼市明神前遺跡では、縄文時代中～後期の石囲い炉と埋甕を調査しました。宇都宮市針ヶ谷新田遺跡では、栃木県では調査例の少ない弥生時代後期の竪穴住居跡6軒が発見されました。弥生土器のほか石鏃や紡錘車も出土しました。小山市西高橋遺跡では、工業団地予定地内に40基を超える古墳が存在します。昨年度は5世紀代の円墳2基と河原石で組まれた小石室1基を調査しました。佐野市赤見市場古墳では、神社の修復工事の際の工事立ち会いで、古墳の石室が発見され、副葬品が残った遺存状態のよい石室内部の撮影に成功しました。

埋蔵文化財センターで調査した4遺跡は、いずれも道路拡幅や水路跡の工事に伴うものでした。真岡市くるま橋遺跡では、古代の墨書土器や円面硯、緑釉陶器が出土しました。親鸞ゆかりの高田山専修寺に隣接する真岡市市ノ塚遺跡では、中世の掘立柱建物跡や井戸、溝等を調査しました。那珂川町神田城南遺跡では、中世の道路跡も確認されました。

◎埋蔵文化財センターが実施した発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑲	神田城南遺跡	那珂川町	古墳～中世
⑳	市ノ塚遺跡	真岡市	縄文・古墳～中世
㉑	くるま橋遺跡	真岡市	古墳・古代
㉒	横倉戸館1号墳・横倉遺跡	小山市	古墳

◎その他の機関が実施した遺跡の

内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
㉓	権現山遺跡	宇都宮市	古墳
	調査主体者	新潟大学	
㉔	城内町古墳群1号墳	栃木市	古墳
	調査主体者	國學院大學栃木短期大学	
㉕	機神山古墳群26号墳	足利市	古墳
	調査主体者	立正大学	
㉖	園部愛宕下古墳	栃木市	古墳
	調査主体者	古墳勉強会	

■平成25年度巡回展 栃木の遺跡 —最近の発掘調査成果から— ■

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されております。発掘調査の最新情報を、県民の皆様にご覧いただくために、毎年「巡回展 栃木の遺跡」を開催しております。今年は県南・県北の県立2施設において、下記の日程で開催します。ぜひ、ご来場ください。

..... 展示遺跡と主な展示資料

旧石器時代

にしおさかべにしはら
西刑部西原遺跡（宇都宮市）黒曜石製の石器

縄文時代

かけのうえ
欠ノ上 I・II 遺跡（さくら市）縄文土器

弥生時代

はりがやしんでん
針ヶ谷新田遺跡（宇都宮市）

古墳時代

はぎやま
萩山遺跡（小山市）土師器
ごんげんやま
権現山遺跡（宇都宮遺跡）鍛冶に使う道具・須恵器
こなべうち
小鍋内 I・II 遺跡（さくら市）土師器
すなた
砂田遺跡（宇都宮市）石製模造品・土師器
あかみいちば
赤見市場古墳（佐野町）

古代（奈良・平安時代）

しもつけやくしじ
下野薬師寺跡（下野市）鉄製の鍵
ちようじゃがだいら かんが
長者ヶ平官衙遺跡（那須烏山市）
やま かみ
山の神 II 遺跡（さくら市）墨書土器

中世

からすやまじょうあと
烏山城跡（下野市）
いちのづか
市ノ塚遺跡（真岡市）

※都合により展示資料が変更になることがあります。



豪族居館跡（権現山遺跡）



たるがたほそう
樽型罎（権現山遺跡）



いぎ
居木（西刑部西原遺跡）



墨書土器（山の神II遺跡）

❖ 開催館のご案内 ❖

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

平成25年4月20日（土）～6月16日（日）

下野市国分寺993 TEL0285-44-5049

○栃木の遺跡展示解説会

6月16日（日）15：00～16：30

※埋蔵文化財センター発掘調査報告会（会場同センター）のあと、資料館でセンター調査担当者が展示資料を解説します。

栃木県立なす風土記の丘資料館

平成26年2月8日（土）～3月16日（日）

那珂川町小川3789 TEL0287-96-3366

○風土記の丘遺跡発表会

2月15日（土）10：00～ 定員60名

利用案内（2館共通）

開館時間 9：30～17：00

（入館は16：30まで）

休館日 月曜日（祝日・休日を除く）

祝日（土・日は開館）

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは

ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及資料課まで TEL 0285-44-8441